

登録コード	J5230300	開講年度	2026					
授業科目	経営分析					担当教員	関 利恵子 他	
英文授業名	Management information anajysis					副担当		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・3時限 金曜・4時限	対象学年	(20・23カリ対象科目) 経：3年/法：3年	
講義室	経法第4講義室			授業区分	講義	遠隔授業科目		
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					【授業の達成目標】		
	経法20加 現代社会が抱える課題に対して、社会科学の専門性を軸足とする解決方法を提案し、自然科学と協働しながら課題解決に導く力を身につける。					・現代社会が抱える課題について、会計的思考・分析手法をもとに解決方法を検討・提案し、課題解決する能力を身に付けることができる。		
	経法23加(2026改)・応用経済、経法23加・応用経済 専門知識を応用・実践する力として、計量的分析手法によるデータ解析を用いたリスクの定量的評価、実験経済学による社会制度の機能の検証、医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘、法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証、などのスキルを習得し、経済の実情に即した政策提言、あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。					・専門知識を応用・実践する力として、経営分析によるデータをもとに解決方法を検討し、経営や政策提言に役立つ会計情報の活用が実験経済学や社会調査と統合されることで、実践的な課題解決能力を身につけることができる。		
	環境問題、少子高齢化、自然・経済リスクの管理、コーポレート・ガバナンス等の法制度がかかわる問題などについて、現実的に解決を探る際には、法学、さらには、理学・工学・医学等の関連領域との協力が必要となる。このために、関連する分野の考え方を正しく理解して経済学的分析手法との相違を把握し、経済学の知見を、柔軟にまた建設的に応用できる能力を身につける。					・関連する分野の考え方を正しく理解して、経済学的分析手法との相違を把握し、経済学の知見を、柔軟にまた建設的に応用できる能力として、経営分析は、組織の状況を定量・定性的に分析・検討する力を身に付けることができる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	本実習の目的は、経営分析、国際財務報告分析、ディスクロージャー制度を中心に、企業の現状を定量的に把握し、未来の方向性を考察する力を養うことです。収益性や安全性の評価をもとに、企業が発信する情報を多角的に捉えて、経営の課題や強みを見抜くスキルを習得します。加えて、定性情報を使い企業のビジョンや戦略の背景を読み解く力も養っていきます。							
(5)授業計画	概ね、以下の計画で講義を進めます。講義開講日が変則的ですので注意してください。 第1回(4月10日) 担当：関 1. 財務諸表の読み方 2. 安全性分析 第2回(4月17日) 担当：関 3. 収益性分析 4. 収益性分析 第3回(4月24日) 担当：関 5. 成長性分析 6. 総合分析 第4回(5月29日) 担当：明治大学 講師 平屋 *第4回はオンラインorオンデマンド講義 7. 国際財務報告演習 第5回(6月5日) 担当：TMI総合法律事務所 参与 谷口 8. 有価証券報告書制度 制度概要 9. 有価証券報告書制度 有価証券報告書の記載内容(サステナビリティ情報を中心に) 第6回(6月12日) 担当：税理士法人みずほ 公認会計士 八幡 *第6回はZOOMによるオンライン講義です。 10. 会計不正と内部統制について 11. 粉飾決算事例について 第7回(6月19日) 担当：TMI総合法律事務所 参与 谷口 12. 有価証券報告書制度 有価証券報告書の記載内容(コーポレートガバナンス情報を中心に) 13. 有価証券報告書制度 有価証券報告書の事例分析 第8回(6月26日) 担当：TMI総合法律事務所 参与 谷口 14. 有価証券報告書制度							

(5)授業計画	事業報告・計算書類の有価証券報告書への一本化（定時株主総会前開示） 15．自主的な企業情報開示（IR）（統合報告書を中心に） 第8回目に授業アンケートを実施します。
(6)成績評価の方法	講義レポート全4回で評価します。 ・外部講師〔平屋・八幡・谷口〕の締切日は出題より1週間後とします。
(7)成績評価の基準	(i)問題の設定が適切であり、(ii)その問題背景を説明できており、(iii)その問題にどのような課題があるかを指摘できており、(iv)それらの課題に対して既存学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v)その上で自分見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i)から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目まで満たしていれば「やや上にある」。3項目まで満たしていれば「水準にある」。
(8)事前事後学習の内容	講義内容については、事前・事後ともに、講義資料および講義中に講師から出した課題等で行ってください。
(9)履修上の注意	・日頃から注意して、新聞・雑誌等の企業や経営関連の記事に目を通しておいってください。 ・詳細は第1回目の講義ガイダンスで説明します。 ・本講義は前期・金曜日（3・4時限）の連続講義です。 ・開講日について各自確認をするようお願いします。 ・講義資料はe-alpsに掲載します。
(10)質問,相談への対応	質問及び相談は 開までe-mailで対応いたします。 その際、件名に「経営情報分析論の質問」、本文には学籍番号と氏名を書いてください。
【教科書】	講義ガイダンス時に指示します。
【参考書】	適宜、指示します。